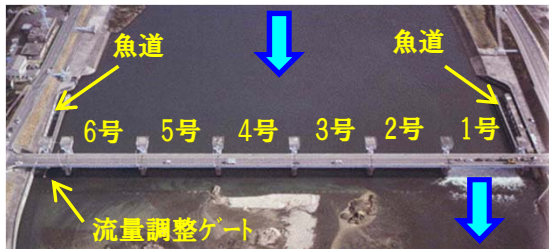


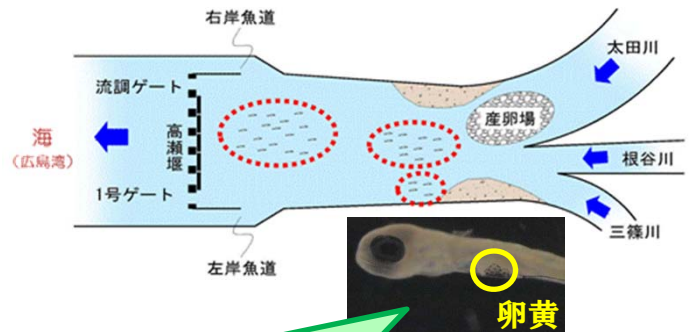
アユ仔魚の降下に関する取り組み

高瀬堰では、貯水池内において、アユふ化仔魚が滞留している可能性を示唆されたことから、アユ仔魚の降下への対応について、調査・検討・対応・モニタリングを実施しています。

1. 平成17年～18年にかけて、「アユ仔魚降下調査検討ワーキング」を設立し放流方式がアユ仔魚降下に与える影響を確認



→通常は、1号ゲートから放流しています



仔魚（赤ちゃん）は、生育のために冬場は海にむかって降下します。お腹に卵黄と呼ばれる栄養分があり、4～5日程度は持ちますが、なくなると死んでしまいます。

【問題】

- ・流れのない貯水池では、仔魚がたまってしまう
- ・卵黄がなくなる前に、海にたどりつけない

【貯水池の状況を確認】

■水の流れを確認してみよう

→水の流れが、左右岸に分散している（水の流れの強さが分散）

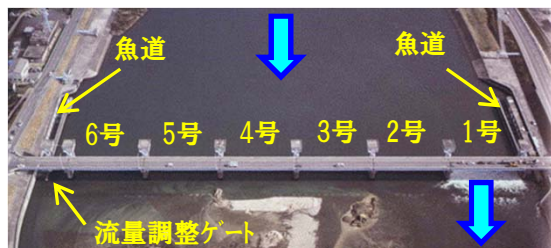
■河床形状（川底の状態）は？

→左岸から右岸にむかって、6号ゲート側に深掘れしている（水みちができています）

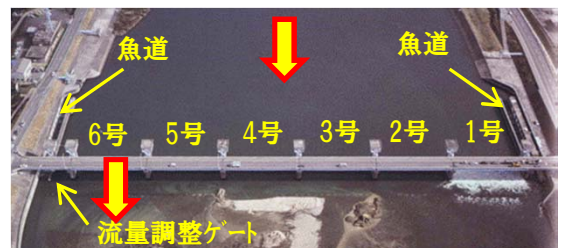
→水の流れは、右岸側（6号ゲート側）に向かっている

- 右岸側（6号ゲート側）に流れをつくれば、一気に堰を通過できるのでは？
- 【実験！】6号+流調ゲートからの実験放流により、右岸側に集中した強い流れを確認！！
- 「6号ゲート放流方式がアユ仔魚の降下をより安定的かつ効率的に促進できる」と結論

2. 平成19年10月より、アユ仔魚が降下する時期である10月～12月の間は、6号ゲートからの放流方式で運用開始



1月～9月



10月～12月

※流量調整ゲート及び両岸の魚道からは、通年放流しています。

3. 平成24年より、アユ仔魚降下に関するモニタリング調査を実施し、効果検証を行っています。